

# 総合人間科学系 全学教育センター

## 人類の過去・現在・未来： 共生の可能性を探る映像人類学

フィールドワーク（現地調査）を通じて異文化について学ぶ文化人類学に関する科目や、人と自然との関わり、アフリカの文化について学ぶ科目を担当しています。

専門は文化人類学、映像人類学。中部アフリカ、カメルーン共和国の熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の生活文化を中心に、フィールドワークにもとづいて、自然と共に生きる人々の暮らしを研究しています。また、その営みを映像によって記録し、映像を活用した研究も行っています。

人文・社会・環境科学  
教育部門

研究から広がる未来



分藤 大翼 教授

立命館大学 産業社会学部  
卒業。京都大学大学院アジ  
ア・アフリカ地域研究研究  
科 アフリカ地域研究専攻  
修了（博士・地域研究）。  
2009年に全学教育機構に  
着任。現職に至る。

自分の生き方が正しいと思っている人、あるいは間違っていると思う人は、文化人類学を学ぶべきです。世界中の様々な生き方を具体的に学びながら、自分や身近な人々の生活について考えなければ、望ましい未来は実現しません。激変する世界を生き抜くためには、人類の性質を見きわめながら、人と自然、人と人、人とモノとの関係を調整してゆく必要があります。人類学的な研究は、その基礎となるものです。

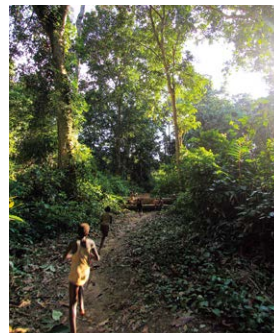
卒業後の未来像

自分に対して暗い人に明るい未来はありません。他人に照らして自分を明らかにする。異なる文化に学び、自分の（囚われている）文化について考えること。

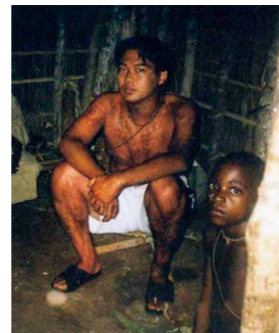
きちんと学べば、今、自分がどうするべきかを考え行動できる人になるでしょう。



アフリカ大陸の飾りを付けたネックレス。この少女の暮らしと私の暮らしはどのようにつながっているのか。



森の小道を走る少年少女。



現地社会の一員になるための儀式を受けているところ。